

英語史における非人称動詞の実証的研究 データを緻密に分析し、英語史を解き明かす

三浦 あゆみ
MIURA Ayumi

大阪大学大学院言語文化研究科 准教授



図1 中英語の代表的作品『カンタベリー物語』の写本 (Ellesmere Chaucer, c.1400-1410, Huntington Digital Library)



図2 OED Online (<https://www.oed.com/>) より、“English”の項の見出しと過去千年以上に渡る用例のリスト (一部)



文化間で互いに理解しあい、国際的なパートナーシップを築くためには、異文化とその言語についての深い理解が必要不可欠です。現在、世界中で幅広く用いられ、多様に展開している英語は、初めから現在のような形であったわけではありません。中英語（1100年から1500年頃の英語。図1）には非人称構文をつくる動詞、すなわち「非人称動詞」が数多く見られますが、これは現在の英語からはほぼ姿を消しています。私の研究では、大規模な言語資料として複数の歴史的辞書のデータを分析し（図2）、感情を表現する非人称動詞と類義語の比較を通じて、非人称構文を制約する複雑な諸要因を特定しました。近年、人文学では、歴史資料をデジタル化し、情報学的手法によって人文学的な問題に取り組むデジタル・ヒューマニティーズという分野が発展していますが、私はそれに言語学の知見を取り入れつつ言語の変遷を研究しています。

キーワード

英語史、言語学、辞書学、デジタル・ヒューマニティーズ

応用分野

英語教育、歴史学、エモーション・スタディーズ

【研究の先に見据えるビジョン】感情を表す言葉の変遷から人間を考える

感情を表現する言葉は、感情についての私たちの考え方や、その感情が他の概念とどのように関わるのかを表しています。それは歴史のなかで変化してきたし、これからも変化していくことでしょう。そして私たちはそうした言葉を通じて、その重要な側面である感情の観点から「人間」の理解にアプローチできます。現在、心理学や歴史学をまたいだ学際的な研究分野として「感情史」や「エモーション・スタディーズ」が注目されています。感情をめぐる言語の歴史は、こうした展開に対して基礎研究として寄与することが考えられます。言語やその歴史の研究は本来学際的なものです。欧米では近年、言語変化のモデルと数学・物理学との関係を探る研究や、主に理数系の計量的手法を活用した古典作品の文体研究が行われています。今後も可能な限り、狭義の言語学や文献学に留まらず、他分野の知見を活かした研究に従事したいと考えています。

行動経済学と産業組織論の融合による 競争政策・消費者保護政策の研究と政策提言

室岡 健志

MUROOKA Takeshi

大阪大学大学院国際公共政策研究科 准教授



携帯電話契約、住宅ローン、保険などは、契約条項や罰金条件など商品特性が非常に複雑です。私は、「消費者」と「契約を自動更新できる企業」との関係に着目した研究を行っています。そのアプローチは、必ずしも完全合理的に行動しない消費者を考慮した分析が可能な行動経済学と、市場での企業行動を分析する産業組織論という、2分野を横断するものです（図1）。例えば、2年縛りによる携帯電話契約延長に関し、最初に説明する場合と2年後にリマインダーを送る場合を比較しました。その結果、契約内容をよくわかっている消費者とよくわかっていない消費者がどのような割合で混在していても、一定条件の下では社会全体の利益と消費者保護の両観点からリマインダーの方が良いということを理論的に導出しました。こうした研究は、新しい分野の構築・発展だけでなく政策立案においても有用であり、私は複数の官公庁で近年の日本の競争政策・消費者保護政策の議論に携わっています。

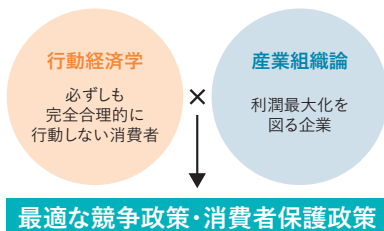


図1 社会課題解決へのアプローチ



キーワード

行動経済学、市場分析、産業組織論、ゲーム理論、ナイーブな消費者

応用分野

競争政策、消費者保護政策、マーケットデザイン

「研究の先に見据えるビジョン」「何となくおかしい」を理論的に分析する

日常生活の中で“ちょっとおかしいのではないか”と感じることは、いくらでも見つかります。そのような“何となくおかしい”ことに対し、感覚だけで議論を進めるのではなく、それが本当におかしいかどうか、おかしいとすればなぜなのかを、なんらかの理論に基づいて分析することは極めて重要です。理論的な分析を行えば、その枠組みに基づいてデータを集め、新たなエビデンス（現実には何が起きているかの根拠・証拠）を蓄積することができるようになります。エビデンスが蓄積されれば、たとえば新たな規制を導入すべきか否か、もし導入するとしたらどのような形にすべきかなどの具体的な展開について、理論という明確な枠組みの中で議論することができます。このようなアプローチで、社会問題の解決に向けて研究を進めていきます。